

新年



西条市長 伊藤宏太郎

新年明けまして、おめでとうございます。謹んで初春の御祝詞を申し上げますとともに、皆様の御健勝と限らない御清福を、心からお祈り申し上げます。

さて、年頭にあたり、昨年を振り返り、新しい年を展望してみますと、好調な外需と設備投資に牽引されて堅調に推移してきた我が国経済ではありますが、このところの原油、原材料高に加え、金融市場の動揺や円高、住宅着工の減少等、先行リスクが高まっており、また、国政においても衆参ねじれ現象の中、政策決定の停滞感が高まるなど不透明感が強まっています。

そうした中、西条市においては3年連続法人市民税の伸びが20%を超えるなど、着実な市勢の伸展をみておりますし、新市計画も着実に進展しているところであります。

昨年におきましては、「食の創造館」をはじめ、西消防署新庁舎、志河川ダム等、食の情報発信や地域防災、農業振興等、本市の発展に欠くことのできない拠点施設が相次いで開設され、自立のまちづくりが、より進展することとなりました。

また、11月にはJR伊予西条駅の東隣に、四国鉄道文化館、十河信二記念館、観光交流センターの3施設が集まった新しい観光・交流エリア「鉄道歴史パーク in SA IJO」が待望のオープンを迎え、開館3

週間にして入場者1万人を数えました。

このように、躍動著しい本市の姿を目の当たりにしますと、市民の皆様方の融和によって生み出される「市民力」と、本市の「総合力」が融合して湧き出している「西条パワー」が大きく開花しつつあることを、強く実感するところであります。

また、近年の地方分権改革の推進に伴い、地方自治体に対しては「自己責任」と「自己決定」の原則に立った都市経営を進めることが強く求められている一方で、自主財源の多寡による地域間格差の拡大が深刻な課題となっております。

このような状況下にはありますが、本年におきましても、全国に誇れる農業生産力や工業集積、充実した情報発信拠点に裏打ちされた「西条パワー」を最大限に発揮することにより、財政力の強化を図りつつ、地域の均衡ある発展、そして何よりも、市民の誰もが「合併してよかった」と実感できるまちづくりに、全力を挙げて取り組んでまいる所存であります。

本年も旧に倍しましての御支援、御協力をお願い申し上げますとともに、皆様方の益々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

平成二十年元旦